

タイトル	情報社会における教科「情報」の在り方		
発表者	茨城県立波崎高等学校 茂木 孝充		
<p>【主な発表内容】参加者24名</p> <p>◆内容</p> <p>1. 携帯電話を子供に持たせることの危険性について 下田博次先生の話を中心に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや携帯電話の普及が原因で、親や教師の知らないところで子供どうしのやりとりが行われるようになり、対面によるコミュニケーションが悪化した。そして、恐喝などのさまざまな問題が発生するようになった。 ・子供にこんなに自由に携帯電話を使用させているのは日本くらいである。他国では危険だと認識しているから子供に使用させていないのではないか。 ・子供は保護者を通さずに携帯電話という迂回チャンネルを利用して、有害な情報の取得、有害な商品の売買を行うことができる。決済はコンビニで行う。 ・携帯電話を子供に使用させる危険性を情報教員は伝えていかなければならない。 ・インターネットで被害が発生した場合、子供に責任をとらせることは難しく、それができるようであれば、学校教育そのものがいらぬ。 <p>2. コミュニケーションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会は自律神経失調の状態である。抵抗力、自然治癒力が低下している。 ・情報社会の自律神経は、コミュニケーションである。コミュニケーションが深まると単純に捉えがちだが、総務省の調査結果から対面での会話時間が大きく減少している。 ・対面によるコミュニケーション不足から問題が起きたとき、子供は親や教員に相談しない。 ・対面によるコミュニケーションの重要性を情報教員は伝えていかなければならない。 <p>◆質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な実践内容は？ <p>コミュニケーションを意識してパワーポイントを使った自己紹介を2人1組で相手の発表をさせた。</p>			
WEBへの資料公開許諾	許可	不許可	記録者氏名 伊藤 剛志